

感染管理室・感染管理委員会

【概要】

厚生労働省の第8次医療計画等において、平時からの感染対策強化、感染拡大時の対応可能な体制整備（医療機関・病床、専門人材、感染防護具等）が求められています。感染管理室は ICT（感染制御チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）を中心に、感染管理委員会と連携して積極的に院内感染対策に取り組んでいます。

下関医療圏の第二種感染症指定医療機関として6床の感染症病床を有し、指定感染症や新興感染症発生時には中心的役割を担っています。新興感染症発生時には、山口県等の要請に基づき、確保病床26床を提供します。

また院内のみならず、他の保険医療機関に赴き院内感染対策に関する助言を行うなど、地域全体の感染対策の向上に貢献しています。

日本環境感染学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設として、多くの感染症専門医を育成しています。

1. 定例会（12回／年）

毎月、以下の報告と協議を行い、流行感染症、院内感染状況、COVID-19 関連情報等の共有と必要に応じた感染対策について協議します。

- ・感染情報レポート（MRSA、薬剤耐性菌、ノロウイルス、CDI、COVID-19、インフルエンザ等）
- ・抗菌薬（注射剤）使用状況
- ・中心静脈カテーテルサーベイランス報告
- ・針刺し・皮膚粘膜曝露報告
- ・感染ラウンド報告

1) 感染情報レポート

MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）等の薬剤耐性菌、ノロウイルス、CDI（クロストリディオイデス・ディフィシル感染症）、COVID-19、インフルエンザ等の検出・検査状況を、国・県の動向と比較しながら報告しています。結核、CDI等の感染症は ICT が対応し、アウトブレイク予防に努めています。

2) 抗菌薬（注射剤）使用状況

許可制（広域剤：カルバペネム系、第4世代セフェム系等）と届出制（抗MRSA薬、広域ペニシリン）にて抗菌薬を管理しています。管理抗菌薬投与前には血液培養検査の2セット採取を実施しています。キノロン系抗菌薬の使用状況も監視し、WHO（世界保健機関）のAUD（抗菌薬使用密度）を用いて近隣病院と比較検討しています。

3) サーベイランス

厚生労働省の JANIS（院内感染対策サーベイランス事業）の検査部門、SSI（手術部位感染）部門に参加しています。国立感染症研究所薬剤耐性研究からの還元情報を電子カルテとホームページで共有しています。

また、J-SIPHE（感染対策連携共通プラットフォーム）の手指消毒薬使用状況、抗菌薬使用状況、耐性菌検出状況の集計に参加しています。全国の医療機関と比較して当院の位置を把握し、定例会や合同カンファレンスで報告を行い、感染対策の向上に役立てています。

その他、中心静脈カテーテルサーベイランス、カテーテル関連尿路感染サーベイランス、針刺し・皮膚粘膜曝露報告を実施し、定例会で報告を行い、改善策を検討しています。中心静脈カテーテルサーベイランスのマキシマルバリアプリコーションの実施率は、令和6年1月から12月で98%でした。

4) ICT・感染（環境）ラウンド

毎週木曜日に感染管理委員が各部署をラウンドしています。チェックリストを用いて現状を確認し、必要に応じて助言、改善を促します。ラウンド結果は定例会で報告、共有、注意喚起を行っています。

2. カンファレンス

1) ICT カンファレンス・耐性菌ラウンド、AST カンファレンス・ラウンド

毎週金曜日に開催しています。ICT カンファレンスでは感染情報、問題点、改善策を共有し、AST カンファレンスでは血液培養結果、抗菌薬適正使用状況を電子カルテに記録し、必要に応じて介入しています。抗菌薬・耐性菌ラウンドでは、対象患者の病室を訪問し、状態、感染対策を確認しています。

2) 合同カンファレンス

年4回、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しています。35 医療機関・障害者施設と連携し、サーベイランス結果報告、感染対策の情報共有、意見交換を行っています。当院は感染対策向上加算1を算定している医療機関として中心的役割を担い、下関地区における感染対策の向上に貢献しています。当院の連携施設は感染対策向上加算1算定2施設、感染対策向上加算2算定1施設、感染対策向上加算3算定6施設、外来感染対策向上加算算定25施設となっています。

開催年月日	内 容
2024.6.27	「訪問ラウンドからみえる感染対策」について
2024.8.22	【各施設の発表】 ・ 精神科医療における感染対策について（重本病院） ・ 長期療養型病院での疥癬アウトブレイクの経験（前田内科病院）
2024.10.24	【各施設の発表】 ・ 当院における手指衛生の取り組みと課題（関門医療センター） ・ 有床診療所での感染症対策の現状（牛尾医院亀の甲クリニック）
2024.12.12	【事前調査結果による協議】 インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の感染対策など 【各施設の発表】 髄膜炎菌：死なないう対応急ぎます（下関市立市民病院）

3. 新興感染症訓練

下関市内で感染対策向上加算 1 を算定している 4 医療機関が共同主催で開催しました。

開催年月日	内 容	参加施設	場 所
2024.6.13	新興感染症を想定したグループワーク 【シナリオ】 カンボジアに渡航歴がある人が、38.5 度、咳、 関節痛、咽頭痛症状にて受診、インフルエンザ 陽性で帰宅。解熱せず再受診して胸部に淡い浸 潤影ある結核疑い患者を想定。	下関保健所 下関市医師会 医療機関 57 施設 参加者 135 名	海峡 メッセ
2024.12.12	1. 個人防護具着脱練習 2. N95 マスクの着脱方法とフィットテスト	下関保健所 下関市医師会 医療機関 5 施 設 参加者 14 名	下関市 立市民 病院

4. 指導強化加算に係るラウンド

連携する医療機関を訪問し、チェックリストをもとに院内感染対策に関する助言を行いました。その結果を報告書にまとめて各医療機関にフィードバックすることで、地域の感染症対策の推進に努めました。

開催年月日	訪 問 先
2024.1.30	松田内科クリニック
2024.2.29	重本病院
2024.3.21	螢クリニック
2024.8.27	ひろやま内科
2024.9.3	武久病院
2024.11.28	牛尾医院
2024.12.10	帆足医院

5. 感染管理研修

1) 必修研修

感染管理と抗菌薬適正使用の研修は、全職員を対象に年 2 回出席できるように開催し、出席できない職員にはレポートの提出を課しました。参加率は研修とレポート提出を合わせて 100%でした。

前期	あなたの施設にも CRE がやってくる 多剤耐性菌ってなに? どこまでするの感染対策
後期	クロストリディオイデスディフィシル感染症どこまでやるの感染対策 CD の院内感染対策

2) 職種別研修

医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・ボランティアなど、各職種に応じて研修を開催しました。

- ・新規、中途採用者研修
- ・研修医研修
- ・N95 マスクの着脱方法とフィットテスト
- ・検体検査について
- ・感染対策について

6. 地域医療への貢献

1) 感染対策ネットワーク下関

感染対策ネットワーク下関の世話人として、地域の感染防止対策の向上のために取り組んでいます。会員には、医師・感染管理認定看護師・薬剤師・臨床検査技師の多職種が参加しています。また、毎月当院主催で行う市内の感染管理認定看護師と保健所による会議において、感染症に関する情報の共有と意見交換を行い、地域での院内感染防止対策を推進しています。

2) 地域医療研修会

地域医療研修会をオンラインで開催し、地域の感染防止対策の向上に貢献しました。

開催年月日	内 容	演 者
2024.7.18	「肺 MAC」と呼ぶのをやめましょう ～学会見解と当院論文から～	吉田順一

7. ATP（アデノシン三リン酸）調査

ATP+ADP+AMP ふき取り調査（A3 法）を年 2 回実施し、その結果を定例会で報告しました。ATP 調査をすることで、院内の清浄度を数値化することができ、職員の環境整備に対する意識付けと習慣化に繋げる効果があり、日常の感染対策に役立てています。

8. アウトブレイク対策

ICT はアウトブレイクが起らないように院内感染防止対策に努めています。新型コロナウイルス感染症等のアウトブレイクが発生した際には、速やかに対策会議を招集し、現状の把握、感染対策の見直し、現場での指導を行い、早期の収束に努めています。

また、ガイドラインの変更時は感染対策を見直し、院内感染対策の周知に努めています。

9. 手指衛生の啓発活動

手指衛生の啓発活動の一環として、一般の方と職員を対象に標語や啓発ポスターをコンテスト形式で募集し、応募作品を 11 月 5 日から 12 月 6 日まで院内に掲示しました。最優秀作品は 1 年間各部署の手洗い場に掲示し、手指衛生の意識付けに役立てています。

手指衛生遵守率向上を目的に、擦式アルコール手指消毒薬の使用量調査を行い、「1 患者 1 日あたりの手指衛生使用量」を算出して手指衛生の促進を図っています。また、手指衛生のモニタリング調査を、WHO「5 つのタイミング」をもとに直接観察法で年 3 回実施

し、定例会でアルコール使用量と新規 MRSA 検出数の比較結果とともに報告して、啓発活動を行っています。

10. 業績

<学会発表等>

開催年月日	演 題 名	演 者	学 会 名 等	場 所
2024.3.18	特別講演	吉田順一	下関市医師会学術講演会	Web 開催
2024.6.20	敗血症 DX（デジタル変革）：大腸菌など菌血症の対応	吉田順一	下関市医師会会員向け感染症研修会	Web 開催
2024.5.31-6.1	Clofazimine を用いた肺 Mycobacterium abscessus 症 4 例：有害事象（AE）の課題	吉田順一	第 99 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会	出島メッセ長崎
2024.7.18	「肺 MAC」と呼ぶのをやめましょう～学会見解と当院論文から～	吉田順一	感染管理委員会地域医療研修会	Web 開催
2024.7.25-27	合同カンファレンスにおける 2 年間の取り組み	又賀明子	第 39 回日本環境感染学会総会・学術集会	国立京都国際会館

<論文>

発表年	表 題	著 者 等	雑誌・巻・ページ
2024	Greetings from Shimonoseki City Hospital in JAPAN!(JPN009)	吉田順一	INS-416 Newsletter 39
2024	COVID-19 に対するレムデシビル前値または上限値に対する血清クレアチニン比を用いる投与後腎機能モニター	吉田順一	臨床と研究 101(5):80-83
2024	WHAT CAUSES PATIENT OR DOCTOR DELAY ON TUBERCULOSIS DIAGNOSIS BEFORE AND DURING COVID-19 PANDEMIC ? -An Eight-Year Study in a Japanese Teaching Hospital-	Junichi Yoshida Tetsuya Kikuchi 他病院医師	Kekkaku 99(5):119-123
2024	新興感染症想定机上訓練	吉田順一	毎日新聞 2024 年 6 月 22 日
2024	新執行部紹介	吉田順一	下関市医師会報
2024	編集後記	吉田順一	下関市医師会報 夏季号 338(4)
2024	感染症研究会（6/20）「敗血症 DX（デジタル変革）：大腸菌など菌血症の対応」	吉田順一	下関市医師会報 夏季号 338(33)

2024	急性期医療 DX（デジタル変革）と経営：抄録	吉田順一	同門会誌 59・13-15
------	------------------------	------	------------------